

「やもめの献金」

2023年11月02日

イエスは目を上げて、金持ちたちが献金箱に献金を入れるのを見ておられた。そして、一人の生活の苦しいやもめがレプトン銀貨二枚を入れるのを見て、言われた。「確かに言うておくが、この貧しいやもめは、誰よりもたくさん入れた。あの金持ちたちは皆、有り余る中から献金したが、この人は乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである。」（ルカ21：1～4）

エルサレム神殿に、「ラッパ」と言われた献金箱が13個置かれていた。巡礼者たちは、思い思いにラッパに献金を入れていた。金持ちは多額の献金を献げ、神殿への篤い信仰を表していた。ラッパの側には係員が立ち、特別に多い献金が献げられた時には、大声で「どこの誰々さん、いくら」と発していたという。日本の神社、仏閣でも、献金額が多い順に、名前が張り出されている。石に彫り込み、永遠に残そうとさえしている所もある。主イエスは巡礼者たちが献金箱に入れるのを見ておられた。その中に、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銀貨二枚を献げるのを見られた。そして、「確かに言うておくが」と、良く聞くように注意され、「この貧しいやもめは、誰よりもたくさん入れた。あの金持ちたちは皆、有り余る中から献金したが、この人は乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである」と言われた。レプトンはユダヤの最小の銅貨で、一日の賃金1デナリオンの128分の1である。数十円と見なしてよいであろう。夫を失い、貧しく、心細い生活をしていた彼女は持っていたレプトン銀貨2枚の全てを献げた。民衆は有り余る中から多額の献金をする者に目を向けていたが、主イエスはやもめの献金に目を止め、生活費の全てを献げた彼女に注目させた。

当時、女性は社会に出て働き、自立する生活をすることはできなかった。彼女は実際、貧しい生活を強いられていたに違いない。主イエスは、彼女の献げる姿勢と思いを凝視されていたのである。人は何を見ているかによって、その人の心が見えてくる。主イエスは、恵まれている人ではなく、生きることに苦しんでいる人に目を注いでおられる。

しかし、このやもめの献金には、少なからず、疑問が湧く。主イエスは、暴利を貪っている両替商人や犠牲の羊や鳩を売る商人たちに、「私の家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。ところが、あなたがたはそれを強盗の巣にしてしまった」と言って、追い出している。神殿を強盗の巣と見ている。また、見事な石と奉納物で飾られた神殿に感心している人たちの話を聞いて、「あなたがたはこれらの物に見とれているが、積み上がった石が一つ残らず崩れ落ちる日が来る」と神殿崩壊を予告されている。主イエスは、神殿は腐敗し、いずれ崩壊すると認識されている。主イエスは、そのような神殿へ貧しいやもめがなけなしのお金を献金することに意味を見出しておられたのであろうか。意味を認められない神殿への献金には疑問を感じる。主イエスがやもめの献金を称賛したのは、全存在をかけて、神の守りと祝福を信じている彼女の信仰に注目されたのであろう。

献金に関し、ある人を思い出す。彼の母親は貧しいけれども信仰熱心であった。礼拝に行く時、質屋に寄ってお金を入手し、それを献金していた。幼い彼は、そこまでして、献金しなければならないものかといぶかしく思っていた。彼はクリスチャン女性と結婚し、教会とはつかず離れずの態度であったが、80歳を過ぎて教会に行き、受洗準備をしている時、癌で召された。献金は納得して、賢く捧げるべきである。